

10. 紙・パルプ技術分野における 国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

紙・パルプ技術分野で扱う国際標準化は、紙、板紙及びパルプに関する国際標準化であり、その活動はISO/TC6（紙、板紙及びパルプ）において行われている。

ISO/TC6の活動は、歴史的に紙パルプを主要な輸出産業とする北欧及びカナダが牽引してきたが、最近では、従来までISOに関心の薄かった紙の生産と消費で世界最大のアメリカが自国の規格を持ち込む形で力を入れだしている。さらに、大きな潜在的消費を持つ中国も大型の代表団をTC6の国際会議に派遣するようになってきている。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

2.1 重点TCの選出

紙パルプ産業は現代社会の中ではなくてはならない基幹産業であり、また、我が国の技術力が高いレベルにある産業でもある。ゆえに、国際標準化においても、我が国の技術を適切に反映させ産業競争力強化につなげることが重要である。したがって、ISO/TC6（紙、板紙及びパルプ）を重点TCに選定することとする。

2.2 重点TCにおける国際標準化戦略

日本で消費される紙の品質を維持していくためには、国際規格を含め適切な規格の制定が重要である。また、産業活動の国際化の進展に伴い、国際規格の役割は益々重要になることを踏まえ、日本は、我が国に不利なISO規格が作成されないようイニシアチブをとることが必要である。

しかしながら、最近まで国内における国際規格の認知度は必ずしも高くなかったこともあり、国際標準化活動は緒についたばかりである。このため、今後は、ISOへの国際規格の提案を積極的に行っていくとともに、WGにエキスパートを派遣する等によりWGレベルの活動にも積極的に参加していく。また、国際幹事・コンビナー等の引き受けも必要に応じ取り組んでいく。さらに、パルプ生産国であるカナダ・米国との連携、中国・韓国等のアジア諸国との連携により欧州勢の国際規格提案と調整していく。

3. 重点TCの活動状況

○ISO/TC6（紙、板紙及びパルプ）

ISO/TC6においては、カナダ、米国、北欧を中心とした試験方法、寸法、試験機器などの国際規格化が主に行われている。ただし、それらの国際規格化の過程においては、欧州勢と北米勢との意見対立が散見される。

4. 我が国の活動実績（2006年）

(1) 全体概要

我が国の紙パルプ産業は、世界第3位の紙・板紙の生産国であるものの、輸出が数%で典型的な内需型産業のため、これまで国際標準化には関心が薄かったが、数年前のJISの国際統合化を契機に、ISOを基準とした国際標準化に取り組み始めたところである。近年は、紙パルプの輸出入量が増しており、国際規格の役割は重要になってきている。

このため、1999年以降TC6関連の会議には必ず出席し、国際標準化活動に積極的に取り組みつつある。そして、2007年2月に「ISO戦略会議」を紙パルプ技術協会に設置し、国際標準化活動により積極的に取り組む体制を整えたところである。

(2) 活動実績

6. 参考資料集の(2)に示すとおり、以下の数値となる。

- ①新規提案規格数：0件
- ②国際会議参加実績：3回延べ31人
- ③日本での開催実績：0件
- ④幹事国・議長等の引受実績：0件

5. 我が国の活動計画（2007年）

紙パルプ技術協会に設置した「ISO戦略会議」において、我が国から提案すべき案件、提案案件がスムーズに採択されるための方策、コンビナーの引き受け計画等の戦略を検討する。

また、提案の第一段として透気度試験方法に関する提案を近年中に行うべく、必要な準備を行う。